

## 人類史上 最も暗い一ページ

1966年8月5日、北京師範大学付属中学校の副校長卞仲耘氏は、文化大革命の批判大会で自身の生徒に殴られて死亡した。次の日に卞氏の主人の王晶堯氏は、家庭の全ての貯金を使い、一台のカメラ(当時は非常に高価なもの)を購入し、自分の妻の悲惨な遺体写真を撮影した。

四十二年後の2008年、ある記者が王氏に取材した。「どうして虐待された妻の遺体写真を撮って、今まで大切に保存してきたのか?」という記者の質問に、老人は長い沈黙の後、「私はこの写真を後世の人々に見せたかった。これは、人類史上最も暗い一ページである!」と憤慨して答えた。

1966年の夏、中国全土で文化大革命運動が展開された。当時、全ての小

学校、中学校、大学で学生が学校の校長、教頭と一部分の教師の批判大会を開いた。学生達はこの運動の目的と黒幕を知らず、ただ毛沢東の「造反有理」という指示に従い、人身侮辱の言葉と殴るなどの暴力行為を行い、相当人数の教師はその場で死亡した。更に大勢の教師は侮辱に耐えられず自殺した。ほぼ半世紀の間が経過した今、事件の経緯と真相、死亡した人数、責任者の追及等の事は全く行われていない。

最近、王氏に取材した文章、王氏と卞

氏の家族全員の写真と卞氏の遺体の写真がネットに掲載された。これに対し、大きな波紋が起った。大部分の人は、王氏の意見に賛成しているが、数人は、この事件より南京大虐殺が人類史上最も暗い一ページであると強調した。

これに対し、筆者は「1949年以後、中国共産党は色々な政治キャンペーンを展開し、公式な裁判をせず、無数の人間の自由或いは命まで奪ってしまった。また、学校教育の内容は暴力的、残酷的な部分が相当多い。1966年、毛沢東の鶴の一声で、当時中国の小学校、中学校、大学の学生は、数千年にわたる師を尊ぶ中華文明の伝統を捨て、自分の先生を批判、虐待した。南京大虐殺は勿論非常に残酷であるが、それは戦争という特別の環境で発生した事件である。文化大革命の時期は平和な環境で、学生が自分の先生を虐待し、大規模でもあった。人類史上に当然前代未聞で、これから起きる可能性も小さいから、人類史上最も暗い一ページではなかるか。」とネットで議論を展開した。

筆者の意見に、反論者は出なかった。

